

## 前橋汀子 デイライト・コンサート Vol.2

10月14日(火) 11:30開演 コンサートホール

詳細はP11へ



ヴァイオリン:前橋汀子 ピアノ:松本和将  
 クライスラー/美しきロスマリン  
 ヴィエニャフスキー/モスクワの思い出  
 ドヴォルザーク(クライスラー編)/  
 わが母の教え給いし歌  
 スラブ舞曲  
 バガニーニ(クライスラー編)/ラ・カンパネラ  
 【懐かしの名曲集】  
 イエスタデイ、愛の賛歌、枯葉、  
 アメイジング・グレイス ほか

### 一流のヴァイオリン演奏で贅沢な1日を

音楽活動が50年を超えるベテランでありながら、円熟味も増すと同時にますます輝かしい演奏を聴かせている前橋汀子。レパートリーの拡大ほか、新しいスタイルのコンサートにも意欲的に挑戦しているが、平日のランチタイムに行う「デイライト・コンサート」もそのひとつだ。

約1時間というコンパクトなコンサートで、チケット代はお財布にやさしい2,000円。しかも演奏されるのはクライスラーの作品やドヴォルザークの「スラブ舞曲」「わが母の教え給いし歌」、ショパンの「ノクターン」やブラームスの「ハンガリー舞曲」など、究極のヴァイオリン名曲集だ。さらには「愛の賛歌」や「枯葉」といったシャンソンのヒット・ナンバー、ビートル

ズの「イエスタデイ」ほか多種多彩な曲も。前橋ファンやヴァイオリンが好きな方はもちろん、一流のクラシックを気軽に、そして最高級の音響空間で味わいたいという方にはおすすめ。前後にはランチやショッピングなどを楽しむこともできそう。

広いホールに響くみずみずしいヴァイオリンの音色、その音楽と対話をするように寄り添うピアノ。クラシックを聴いてみたいという家族や友人も誘えるコンサートであり、キッズルーム(事前申し込み制)もあるのでママ友を誘うこともできそう。素敵な音楽で、ちょっと贅沢な時間を。

主催:KAJIMOTO 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 協力:東武鉄道株式会社/株式会社ソニー・ミュージック ジャパン/インターナショナル/公益財団法人 としま未来文化財団

## ザ・ライジング・スターズ スーパーコンチェルト 《ドラマティック北欧名曲ビッグ3》

11月2日(日)14:00開演 コンサートホール

詳細はP13へ



指揮:イニャキ・エンシーナ・オヨン  
 ピアノ:マリオ・ヘリング\*、モナ=飛鳥・オット\*\*  
 ヴァイオリン:ジョセフ・リン  
 管弦楽:シアターオーケストラトキー  
 ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第2番 八短調 Op.18\*  
 グリーグ/ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16\*\*  
 シベリウス/ヴァイオリン協奏曲 二短調 Op.47

### いま聴いておきたい俊英たちが火花を散らす

次々に登場する才能豊かな音楽家たちと、一度のコンサートで出会えたら。そんな希望をかなえてくれるのが、3人のソリストと1人の指揮者を迎えた「スーパーコンチェルト」。3曲の名作協奏曲を演奏するのは、いま聴いておきたい俊英アーティストたちだ。

名匠バドゥラ=スコダが絶賛するマリオ・ヘリングは、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を。すでに何度かの来日公演で豊かな音楽性を披露している(そして人気ピアニスト、アリス=紗良・オットの妹でもある)モナ=飛鳥・オットは、グリーグのピアノ協奏曲を。さらにはヨーヨー・マらがその才能を認め、名門ジュリアード弦楽四重奏団の第1ヴァイオリンも務

めているジョセフ・リンが、シベリウスのヴァイオリン協奏曲を演奏する。「スーパー」というタイトルにふさわしい顔ぶれであり、未来のスターである彼らの演奏をしっかりと心に刻み込むチャンスでもあるのだ。

3人をサポートするスペイン生まれの若きマエストロ、イニャキ・エンシーナ・オヨンも、パリ・オペラ座などで活躍する注目株。熊川哲也率いるKバレエカンパニーの公演でオケ・ピットに入る、シアターオーケストラトキーヨーが共演することも話題を呼ぶだろう。フレッシュさと沸き立つようなエネルギーにあふれるコンサートを、ぜひお聴き逃しなく。

主催:テレビ朝日/監:インターナショナル 提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

## 東京芸術劇場 Presents クラシカル・プレイヤーズ東京 室内楽演奏会シリーズ

オリジナル楽器の魅力を、150席のホール・エントランスで満喫する贅沢な室内楽シリーズ

### vol3.『オリジナル楽器で聴くフルートトリオ』

11月20日(木)19:00開演 詳細はP14へ  
 フルート:有田正広、前田りり子、菅きよみ チェロ:エマニュエル・ジラルール  
 ボワモルティエ/トリオ・ソナタ 二短調 Op.7-4  
 ハイドン/2本のフルートとチェロのためのトリオ第3番 ほか



### vol4.『カルテット!』

2015年1月8日(木)19:00開演  
 ヴァイオリン:木村理恵、荒木優子 ヴィオラ:成田寛 チェロ:武澤秀平  
 ハイドン/弦楽四重奏曲から  
 モーツァルト/[ハイドンセット]から第2番 ほか

一般発売:11月20日(木)

コンサートホール・エントランス(5階) 【全席自由】2,000円(座席数150席予定)

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

## 東京芸術劇場&ミュゼ川崎シンフォニーホール共同企画 第5回音楽大学オーケストラ・フェスティバル2014

11月16日(日)・24日(月・休) ミュゼ川崎シンフォニーホール/12月6日(土)・7日(日) 東京芸術劇場コンサートホール 詳細はP15へ



### ミュゼ川崎シンフォニーホール

11月16日(日) 昭和音楽大学(指揮:大勝秀也)  
 15:00開演 東京芸術大学(指揮:尾高忠明)

11月24日(月・休)上野学園大学(指揮:下野竜也)  
 15:00開演 武蔵野音楽大学(指揮:時任康文)  
 洗足学園音楽大学(指揮:秋山和慶)

### 東京芸術劇場コンサートホール

12月6日(土) 国立音楽大学(指揮:高関 健)  
 15:00開演 桐朋学園大学(指揮:ラデク・バボラーク)

12月7日(日) 東邦音楽大学(指揮:田中良和)  
 15:00開演 東京音楽大学(指揮:川瀬賢太郎)

### 明日の音楽シーンを担う若き才能が集結

首都圏の主要音楽大学が誇る学生オーケストラが次々に登場し、その才能を競い合うこのフェスティバルも5回目。プロを目指す音楽家たちであるため、近い将来は首都圏ほかのオーケストラでフレッシュな演奏を聴かせてくれる可能性も高い。聴き手にとっては輝く個性と才能をいち早く見つけることができるチャンスであり、音楽大学を目指す中高生などにはコンサート形式のオープンキャンパスになるかもしれないのだ。今年は新しく上野学園大学も加わり、9つの音楽大学が2つの会場で熱演を繰り広げる。

東京芸術劇場には12月の2日間、4つの音楽大学が登場。指揮者としても実績を重ねているホルン奏者、ラデク・バボラークが桐朋学園大学を指揮してブラームスの交響曲第1番などを演奏するほか、学生オケからも覇気のある名演を引き出ししてしまう高関健は、国立音楽

大学とブルックナーの交響曲第7番を。長年にわたる教育の現場から多くの才能を送り出してきた田中良和と東邦音楽大学によるブラームスの交響曲第4番、そして注目の指揮者となった川瀬賢太郎と母校である東京音楽大学が奏でる、R.シュトラウスの「英雄の生涯」といったラインナップが並ぶ。

これに先立つ11月の2日間には、ミュゼ川崎シンフォニーホールで5つの音楽大学が演奏。こちらからブラームスやチャイコフスキーからバルトークやレスピーギ、ウェーベルンなど多彩な曲を、各校の教授や講師などを務めるマエストロたちが指揮する。ブラームスの交響曲をはじめとするベーシックかつ意欲的な作品が選ばれており、各大学の個性を味わえるだろう。さて、あなたのお気に入りプレイヤーは見つかるだろうか。

主催:音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会/ミュゼ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)/東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

## パイプオルガンコンサートVol.18 ラデク・バボラーク & アレシュ・パールタ ~聖夜に贈るクリスマス・コンサート~

12月16日(火) 19:00開演 コンサートホール

詳細はP16へ



ホルン:ラデク・バボラーク  
 オルガン:アレシュ・パールタ

J.S.バッハ/コラール「目覚めよ、と呼ぶ声あり」  
 BWV645

ブラウン/[無伴奏ホルンのための12の前奏曲]より  
 リスト/バッハの名による前奏曲とフーガ S.260  
 ブルックナー(ボク編)/「交響曲第7番」より  
 第2楽章アダージョ

ヤナーチェク/[「グラゴル・ミサ」より  
 第7楽章オルガン独奏

ボク/夢見るクリスマス・キャロル ほか

### 心にしみる! ホルン+オルガン=天国の響き

プロ・アマを問わず、世界中のホルン奏者から羨望のまなざしを集めているラデク・バボラーク。18歳で名門チェコ・フィルの首席奏者となり、さらにはベルリン・フィルの首席奏者となってスーパーな名演を聴かせてくれたが、彼だったらどんな曲でも吹けるのではないかなと思っている人も多いだろう。そのバボラークが東京芸術劇場の誇るオルガンと共演。20年来の友人だというアレシュ・パールタと共に、クリスマス気分が最高潮へと向かう12月中旬の夜、豊かで崇高な音楽を聴かせてくれる。

プログラムは、まさに彼らならではの選曲。「自分の原点」と語るJ.S.バッハの音楽からは、カンタータで歌われるコラール(賛美歌)やアリアなどの心癒やされるメロディを。バボラークのために書かれ「あらゆるホルンのテクニクが詰め込まれた作品」というブラウン作曲の「12の前奏曲集」からも、数曲を披露してく

れる。さらには「もっと彼の音楽に近づきたい」という一心から編曲を依頼したというブルックナーの音楽も。管(ホルン)+管(オルガン)によって生まれた深い音とハーモニーは天国的だと言えるだろう。

その他、得意とするサン=サーンスの曲や、生まれ故郷であるチェコの民謡をベースにしたクリスマス・キャロル集など盛りだくさん。彼の名前が付けられたデュルク社製ホルンの音色が、楽園へと連れて行ってくれる。オルガンとの共演CDもすでに何枚かリリースされているが、日本でのコンサートは初めてだというから聴き逃さない。管楽器ファン、吹奏楽などで金管楽器を演奏している方、そしてホルンとオルガンの音色がとにかく好きだという方には、心と身体にしみこむような響きを体験してほしい。

取材・構成:オヤマダアツシ

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/豊島区 助成:平成26年度 文化庁 地域発・文化芸術創造拠点イニシアチブ